

テア・マキパー/ Tea Mäkipää (フィンランド)



アートプログラム参加作品 「^ザワールド オブ ^{プレンティ}Plenty」 会場：西調整池



長久手日本館と西調整池

日本ゾーン内の長久手日本館横に位置し、グローバル・ループを中央でつなぐ橋から、池が見下ろせます。この池の端に設置されるのは、フィンランド人アーティスト、テア・マキパーによる作品です。池縁を覆う草の茂みには、高さ3メートル、横幅8メートルにも及ぶ屏風絵を模したようなグラフィックイメージが登場。グローバル・ループや橋など、数地点から見下ろせる位置に設置されるこの作品を通じて、幸福の様を追求していきます。

彼女は、身の回りの環境に自身の存在が脅かされないこと、食事や睡眠を十分に取れることなど、生活の基本が整うことが幸福の入り口であると説きます。そこにたどり着くのは、当たり前のようにいて、環境がめまぐるしく変化する現代を生き抜く人々には実は困難なことです。マキパーはその条件が揃った上で初めて、人は他者を求めて集い、あるいは自己を見つめ、次なるステップを踏みだせるのだ、と語り、未開地や名も知らぬ動物たちにあふれた世界を描き出した「The World of Plenty」という写真作品を通じて、人間の力では凌駕し得ない慈愛あふれる自然の姿を創造します。

テア・マキパー Tea Mäkipää

1973年 フィンランドに生まれる
1998年 ヘルシンキ Fine Art, Academy of Fine Arts
1999年 ストックホルム Kunst&Arkitektur, Kungl. Konsthögskolan
2003年 ロンドン MA Fine Art, Royal College of Art,
現在ドイツ在住



テア・マキパー
photo: Frances Kearney

[過去の作品]



Tea Mäkipää & Pasi Mann
Domesticated Dreams
Installation with foodchain

ふたつのビデオ作品と立体とをを合わせたインスタレーション。野菜とカタツムリと人間の関係など食物連鎖の様子を皮肉的に見せる。



Mann & Laakso & Mäkipää

「Parasite」/1998

ビルに、小さな建物を取り付け、親ビルからワイヤーやケーブルで電熱などのエネルギーを吸い取る、というインスタレーション